

(資料1)

2014年12月5日

2014年度 国産材市況変動分析調査集計結果(木材流通検討会)

今回調査の主旨

2013年後半、暮れからの価格の上昇、ヒキが顕著であったがスギについても同様の動きがあった。たびたび 暴騰 暴落を繰り返す 国産材原木の動向を分析できないかとの目的から JAPIC メンバーの力を借り、森林再生事業化委員会各社でピックアップした事業体に調査票をおくり主として高騰時 と 平常時、高騰年と前年の比較などを行うことにより 高騰の傾向分析を試みた。

アンケート回答状況

	依頼数	回答数	
素材生産業者	57	11	19%
原木市場	51	18	35%
製材業者	97	38	39%
合板工場	14	10	71%
合計	219	77	35%

添付資料

資料 2-1:ここ約 4 年間の原木市況、製材品市況、5 年間の為替(ドル、ユーロ)の推移、最近の住宅着工状況、合板用素材の状況を グラフにまとめた。

資料 2-2:調査票回答内容集計

資料 2-3:国有林での 販売内容について まとめた。(参考)

市況の概要

国産材の最近の暴騰暴落は 2 度起きている

◎ 一回目 高騰は 2011 年初までの 国産材ブームによる高値。国産材他 各種の支援制度等により 一度 価格は 震災直後夏場にかけて下がるが 再び上昇し 秋口まで高値を維持した。

2011 年の 後半 これは森林林業再生成プランの切り捨て間伐に対する補助金廃止による低質材の異常出材による出荷増等で 合板用の実価格も含めて下落。この時期は為替も 70 円台が 2011 年 7 月から一年以上(途中で 80 円台に戻しているが) 続いており 国産材が欧州材に対して不利な状況にあった時期でもある。

この高騰暴落鹿児島大学 遠藤日雄教授の分析 「丸太価格の暴落はなぜ起こるか？」の分析による大きな下落は

外的要因 為替＝円高

内的要因 大型工場の台頭 復興需要をにらんだ合板の投機的な売買
切り捨て間伐から収入間伐への制度的移行に伴う、生産調整機能不全
素材生産業者の企業化 新規素材生産業者の参入
山林所有者の後継者不在による処分が素材供給過剰招く
等を挙げられている。

◎ 二回目は 2013 年後半の暴騰とその反動による下落。

こちらについては 以下にて 調査分析結果を検討。

今回は期近なところでの聞き取りと言うことで この二回目の 2013 年途中からの暴騰と 2014 年になってからの下落に焦点を当て分析してみたいと考えた。

調査の方法

○調査主体:

素材生産業者、原木市場、製材工場、合板工場、国有林
(全国各地の様々な規模の事業体を選んだ。)

○調査対象:

2013 年 11, 12 月から 1 月を市況の暴騰時期と判断し、この 2 か月と、平常時として直前の 7 月を比較、さらにその一年前の同時期の在庫や生産消費量、仕入れ先等。

○調査形式:

素材生産業者、原木市場、製材工場、合板工場のカテゴリー毎に調査票を作成し、2014 年 5 月に発送し回答をいただいた。(アンケート形式)

大まかな 調査対象各事業部門におけるアンケートからの 概要

A. 国有林

国有林の取引形態には立木販売と 製品(原木)販売である委託販売とシステム販売とがある。

落札、契約時期の数字と思われる立木販売の数字は 7 月と比較して 11/12 月の平均は

2012 年が 87%、2013 年は 58%と恐らく年度初めから準備をして落札の時期が 7 月初めと
言うことか？ → 市況の動向と 契約時期とは関係が薄いと言うこと。

一方 製品販売(委託販売とシステム販売)は 11/12 月が 7 月の 3 倍近い数字になっている。
これも 仕組み上の特徴であるのかもしれないが 特にシステム販売は 2013 年の価格高騰時
の出材増が目立っている。(北海道、九州等) 国有林に 対応力があるということか？

局別では これまでも言われているが九州局の他 中部局が システム販売に力を入れている
ように見える。

B. 製材工場

各地とも 大手の製材工場の回収率が悪く あまり参考になるデータになっていないのが現
状であるが 2012 年/2013 年の数字の比較では入荷、使用量とも 若干 (10%+ α) 増えてい
る傾向にあるものの 在庫は 11/12 月にかけて大幅に減少している。

入荷量は 2013 年 11/12 月は 7 月よりは 21%増えているが使用量は若干減っている。(こ
れらは 2012 年も同じ傾向)

一方在庫は 7 月時点に比べると 2012 年はほぼ同じなのに 2013 年は 20%近く減っている
ことがわかる。

在庫は 2012/2013 年比 及び 11,12 月/7 月比 とともに減っており 年末から年初にかけて
製材工場では 在庫素材の減少で不安な時期を迎えていたことがわかる。

C. 合板工場

2013 年では入荷量よりも使用量の方が全般的に多く その分在庫は総量で大きく減少して
いる。特に在庫が冬場減る傾向は 2012 年に比べて 2013 年は顕著になっている。

使用量は 2013 年は 2012 年比 10%+ α 増えており 全体に稼働率を上げる傾向にあった
ものの 2013 年 12 月は 逆に使用量が下がっており 年末の稼働日数以上に 在庫不足に
より 生産量を上げれなかったのではないかと 推察される。

在庫は 冬場の 11/12 月の原木高騰期には 2012/2013 年比 及び 11,12 月/7 月比ともに
減っていることがわかる。

今回 調査票を 送付した 4 業種の中で 合板が 一番 顕著な傾向を示している。

D. 素材生産業者

一番 回答数が少なかった、回答率も低い。また顕著な傾向は出ていない。2012 年も
2013 年も 7 月比 11/12 月は増えている、特に 2013 年が特別ということはなく 出材の傾向
として 秋→冬が 多いということ。ただし この傾向が強いのは 国有林。

聞き取りでも それ程 数量を調整していないということであったので 素材生産部分では

極端な生産量を増やす傾向にはない、増やせる状況になかったと言えるのかもしれない。

E. 原木市場

11/12月にかけて 出品量が増える傾向にあるのは 2012年/2013年とも同じ。前年比ではそれ程顕著な傾向はみられない。総量では 2013年は 2012年比 増えておらず 原木市場として アンケートを取った範囲では 高騰時に 変化があったとは言えない結果である。ただ 中国、四国地方では 2013年は 2012年比量的に落ちており また 2013年 11/12月は 出品量落札量とも 7月に比べて数量が落ちている。この時期の生産量の関係しているか？ 2012年は この傾向は出ていない。

分析結果

◎ 暴騰の原因

アンケートから分かったこと

- 1) 素材生産業者、原木市場には 特にこの時期大きな変化がみられるような状況ではなかった。前年比 大きく 生産が増えたという数字にはなっていない。素材生産業者と中心に 年末にかけて増える傾向はみられる。2013年に 素材生産業者で 11/12月にかけて 生産量が増えているが この大部分は 国有林の部分であった。従って 民有林に関しては 2013年の高騰時に 特別な傾向があったとは 言いにくいところ。
- 2) 国有林の数字もあり 製材所関連では入荷量も増やし 生産量の増加の傾向も見られるため 在庫の数字は明らかに減少している。
また 個別の質問に対して 素材価格の高騰の原因は？ の質問に対しては需要増 との回答がほとんどであった。
- 3) 合板関連では製材所と同様な動きがみられ 特に 在庫の減少が顕著であった。
- 4) 国有林の 特にシステム販売において 2013年の暴騰時には生産販売量が通常時期よりも大きく増えている。

等が 確認されている。

アンケートからは期待したほどの極端な傾向は 見られなかったためその他の資料からも類推してみた。

環境的には消費税前の駆け込み 需要に対する期待、必要性からの原木確保の必要性を感じ

て手当てに走る傾向が強まった。

住宅着工数字が 絶対数、相対数でも確実に増えており またこの時期から木材ポイントの制度の整備が出来上がっており時期的には国産材への要求が高まった時期であったことを考慮すると国産材住宅資材への要求が大きかったことは明らかである。

アンケートのコメントでも 製材工場からはほとんどの回答が 需要増を価格高騰の原因に挙げている。

国有林はシステム販売を中心に 11/12 月にドライブをかけて 生産量を増やしてきているのがわかるが 民有林はアンケートの結果を見る限りでは数量的な伸びが出ていない、これはまだまだ民有林が市況や製品市況による需要の増大に 対応しきれていないと言うことを物語っているのではないか？

これは 製材品の市況価格面からを見ても言える事で ヒノキ、スギの製材品の品不足が一時的に顕著だったことは 原木の不足が 製材所の 増産の足かせになっていた と言うこと。価格的にはこの時期プレーヤーが増えて 実需以上に素材の取り合いが起こり手当てできない状況から仮需的に市況が高騰したと思われる。

国有林の増産、販売量の増加はあったものの 民有林からの出材がそれ程大きく増えていなかった(10%ほど増加したとの情報はあるが) あるいは十分ではなかった ことを考えると マーケットへの供給不足が 考えられる。 需要増による 要望に対して 素材の供給力が対応できなかったことが最大の原因であると推察される。

特に合板用途 (国産材供給のうち 15-20%を占める)では この冒頭時に 急激に在庫量を減らしており使用量の増加が前年比 114%それ程顕著でなかったことを考慮すると 在庫量がかなり危機的な状態であったことが推測される。

各工場、会社では グラフのような 価格として公表した単価がある一方で スポットの ロット単位で価格を出すケースがあるようであるが この時期には必要に駆られてかなり高い価格が出ていたようである。

◎ その後の 市況動向

製材市況は幾分高値圏にはあるものの 2013 年末から 2014 年初の高騰以降は沈静化ここにある数字以上に弱い印象にある。 特に ヒノキは高騰以前の価格に下がっていると現場サイトの印象である。

これに合わせ 製材所の原木手当の意欲は冷え込んでおり ヒノキは特にプレーヤーが少ないこともあり（例えば 四国、九州、関東などは市況に影響を与えるクラスの製材所は 1-2 社）動きが見えてこない状況が続いている。

一方 スギの方は合板工場が原材料不足の懸念から 表向き 一方的に価格を下げるわけにはいかず さらに 2 年前の暴落時にはなかった 輸出、バイオマス用途に突き上げられて手配価格は下がらない。製材用原木も夏場の雨の影響もあり 春先に下がったものの復活している。

また 新たなプレーヤーが出てきている 四国、輸出、バイオマスが出てきて下値が厳しい九州など地区によって 動きが違ってきている傾向にある。

このように ヒノキは 再び 2011 年からの暴落と同じような 傾向で 下がっているが スギに関しては 下支えされているような 傾向があり 2011 年のような 暴落は 防がれている。その原因は それまで 独占的に B 材中心に 価格決定力を持っていた 合板用途が 輸出やバイオマス燃料市場により 下から プレッシュを受けており 常に 在庫不足の不安から A 材市場へも踏み出していかねばならない状況も時たま おこっており 製材用原木も 一定レベル以上に下げれない(素材が大量に原木に流れる)傾向にあるためと思われる。

各地で ヒノキとスギの 価格の逆転現象が起きていると 聞かれるようになってきた。

(参考)

関東製材の杉の 動き

2013 年

7 月 価格上昇の兆しが見えてきた しかしまだ 10000 円を切る市場もある。

8 月 7 月から盆前で 1000 円 盆明け後に 1000 円上げ。10,000 円が 12,000 円になってきている。原木足りない。雨は大したことないのだが一時的に落ち込んでいるのか？

9 月 何もかも足りない、原木ない。製材用足りないスギもヒノキも。出材が少ない、天候が原因。一部国有林 今後天候回復しており落ち着いてくるか？

10 月 どこも物が無い状況。出てきていない、搬出間伐から切り捨て間伐に補助金が出たから切り替えているという噂でている。こここのところの台風の影響もあるにはある。製材用スギ栃木の市場では 15000 円が出ているとのこと、14000 円ははるかに超えている。

11 月 すごい状況、九州と違って 11 月に入っても上がっている。スギの柱 16000 円これは市場でしか買えない人の値段。ここになったら出材はある、出てくる。しかし買いがそれ以上に強い。あるデータベースの計算では 4-10 月で例年の 10%程度余分に出ている。

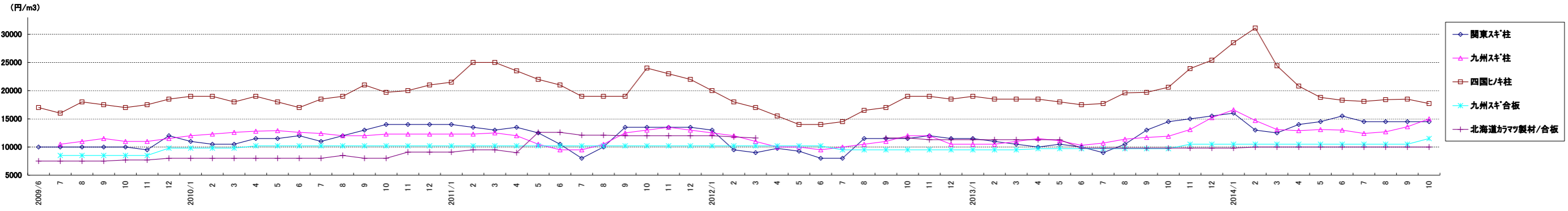
12 月 11 月と状況はあまり変わっていない、スギは高値で落ち着いてきた 市場は 4m 11 月

比変わらない、15000-16000 円。
ヒキは量少ないが上がっている。3m 25000-26000 円 4m 30000-32000 円。

2014 年

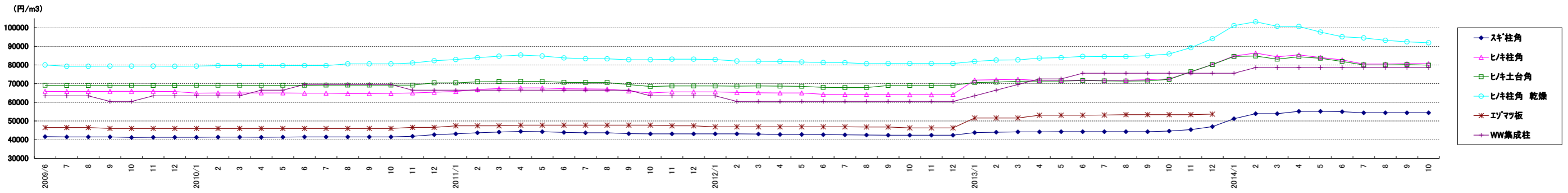
- 1 月 スギ A 材は下がりだしたが BC 特にスギが足りない。ヒキ工場に入らないくらい出てきている、よそへもって行ってくれ。A 材については様変わり。
- 2 月 2 回目の雪で関東近辺は大変な状況 材が出てこない。まだマーケットへの影響は不明だが...
- 4 月 スギ 3m 先月 12000 円まで下がっていたが 13000-14000 円近づいている。理由よくわからないが協和木材木材が集成材を作るために自分の山を2mに伐って一般材用の原木を市場で買っている。
- 5 月 天気は順調出材も 順調。ヒキはダメである 15000-16000 円までさがている。
スギは 3m 物を中心にやや上がり気味 15000 円に戻している。製材品は下がってるが丸太はない状況。
- 6 月 製材用ヒキが下がりどうしようもない状況。3m 15000 円 4m で 17000-18000 円スギが 3m 強くて 15000-16000 円、4m で 14000 円。スギはずっとこの状態が続いており 寒切り以降在庫できていない反動が何時まで経っても改善しない状況。必要量を買うので精一杯。直送の単価は 13500 円で安定している。

○素材市況



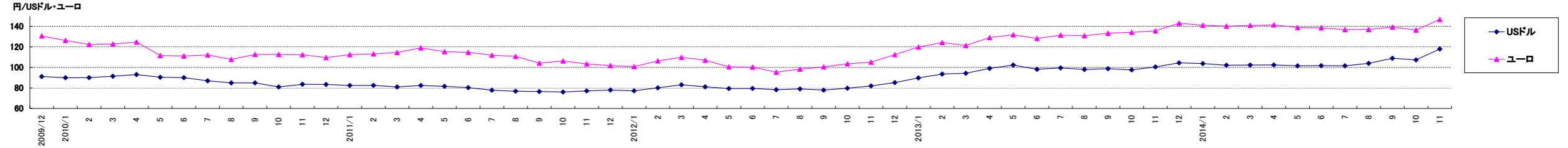
住友林業 山林部 調べ

○製品市況



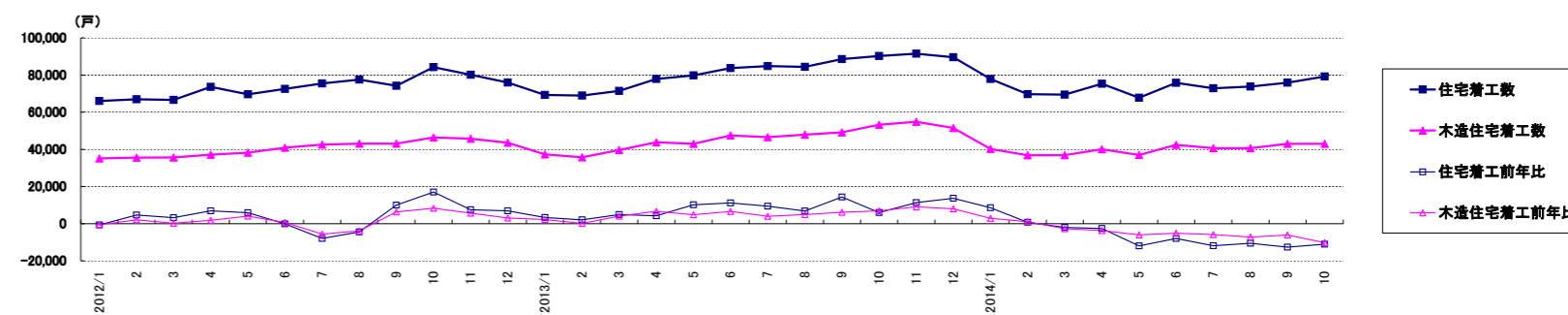
農林水産省 木材価格統計調査より

○為替動向



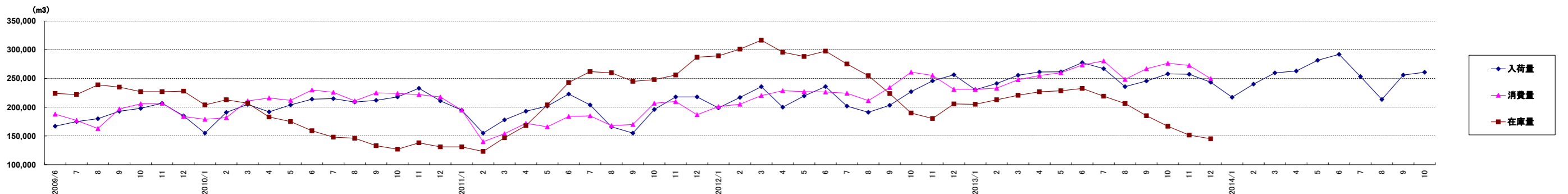
OANDA Japan HP より

○住宅着工(木造住宅着工)動向



国土交通省 建築着工統計調査報告よ

○合板用 国産材素材動向



農林水産省 木材統計調査より

2014年度 国産材市況変動分析調査集計結果(木材流通検討会)

素材生産量(素材生産業者別)

Table showing raw material production volume by manufacturer, categorized by region (A-L) and type (国有林, 民有林, 民国合計). Columns include 2012 and 2013 monthly data (July, Nov, Dec) and 11-month averages with percentage changes.

原木市場取扱量

Table showing raw material market handling volume by region, categorized into '出荷量' (shipment volume) and '落札量' (lot volume). Columns include 2012 and 2013 monthly data and 11-month averages with percentage changes.

製材工場取扱量

Table showing mill handling volume by region, categorized into '入荷量' (arrival volume), '使用量' (usage volume), and '在庫量' (inventory volume). Columns include 2012 and 2013 monthly data and 11-month averages with percentage changes.

合板工場取扱量

Table showing plywood mill handling volume by region, categorized into '入荷量' (arrival volume), '使用量' (usage volume), and '在庫量' (inventory volume). Columns include 2012 and 2013 monthly data and 11-month averages with percentage changes.

